

中国の軍備増強を警戒

防衛白書「これまでにない挑戦」

防衛省は28日、2023年版の「防衛白書」を公表し、軍備増強を進めている中国の動きを「これまでにない最大の戦略的な挑戦」と位置づけた。軍事・経済両面で競争が激しくなっている米中のパワーバランスの変化が、インド太平洋地域の平和と安定にも影響する可能性があると警戒感をあらわしている。

各国情勢の分析で、中国の動向を国別で最多となる31%を割いて

紹介し、「我が国と国際社会の深刻な懸念事項だ」とした。

中国と台湾の軍事バランスが「全体として中国側に有利な方向に急速に傾斜する形で変化していく」と分析。中国が昨年8月と今年4月に台湾周辺で実施した大規模軍事演習は、侵攻作戦の一部を想定していた可能性にも触れた。

ロシアについては、ウクライナ侵攻の長期化で通常戦力が大幅に損耗している可能性を指摘し、「核戦力への依存を深めると考えられる」と分析。中ロが日本周辺で繰り返し実施している爆撃機や

艦艇を使った共同活動は「我が国に対する示威活動を明確に意図したもの」とし、中ロの連携強化に「重大な懸念」を表明した。弾道ミサイルの発射を繰り返す北朝鮮については「従前よりも一層重大かつ差し迫った脅威」と強調した。

白書では「戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面している」として、防衛力の抜本的強化を訴えた。昨年12月に安全保障関連3文書を策定し、敵基地攻撃能力（反撃能力）の保有を決めたことや、23～27年度の防衛費をこれまでの1・5倍超の約43兆円に増やすことなどを紹介している。（田嶋慶彦）